

公益社団法人 伊勢市観光協会
令和5年度 事業報告書

公益社団法人伊勢市観光協会 令和5年度事業報告

長期間に渡り世界中を席卷した新型コロナウイルスでしたが、5月に感染症法における位置づけにおいて、インフルエンザ同等の5類感染症に引き下げられ、事実上の終息宣言となりました。人の行き来や交流が厳しく制限されたことにより、大きく影響を受けた旅行業界でしたが、この発表を受け抑圧されていた旅行への思いが解放されたかのように大きく盛り上がりを見せました。

インバウンドに関しては、ポストコロナの旅行ブームに円安傾向が重なり、「リーズナブルな日本」を求めて訪日外国人観光客が押し寄せました。伊勢市においても令和5年の神宮における外国人参拝者数(1月～12月)が84,703人となり、令和4年の18,698人を大きく上回り前年比453%と好調に推移しました。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震は、地理的状况などが似ている伊勢志摩において考えさせられることも多く、発生時期と時間によっては観光客を多く抱える可能性があり、準備が無ければ対応が困難になることが予想されます。本地域においても、いつ来てもおかしくないと言われる巨大地震に備えて、協議をしていきたいと考えております。

当会事業におきましては、ポストコロナから「新しい通常(New Normal)」への模索が始まり、例年事業の復活と再構築を進めました。日本観光祈願祭については、声かけの範囲を三重県内に拡げ、観光協会や観光施設への参加の呼びかけを行いました。東京御師会議に関しては、4年振りの開催をすることができ、伊勢市の現況や今後の御師制度の在り方などにご意見を頂くことができました。宿泊を促進するために、二見地区の活性化事業に力を入れました。秋の行事の観月茶会、越年行事及び冬至祭、神宮奉納餅つきは、形を変えて実施しました。観光PRに関しては、シンガポール、東京、札幌で展開をしました。

当地の観光DMOとして、伊勢市など関係団体と「稼げる観光地」を目指し、協議を続けました。伊勢市全体を会社に見立て、その中で市役所、会議所、まち会社、当会等が部署の様に役割を果たすことで、伊勢市として「ヒト・モノ・カネ」の有効活用していく考え方です。それを実現させる仕組み作りを進めております。

令和5年度は、ポストコロナからの脱却を図りながら、「新しい通常」を模索した一年となりました。次年度以降は、次期式年遷宮へ向け、関係各団体と調整しながら中期展望を見据えた事業展開を続ける必要があると考えます。

なお、具体的な事業内容は次ページより。

＜公益目的事業—旅客誘致事業＞※見出し横の事業費は経常費用を記載しております

1. 広報宣伝事業(情報発信部会、青年部、事務局)

① インターネットによる情報の発信(IT委員会、事務局) 2,909千円

令和3年4月に刷新した伊勢市との共同観光情報発信ホームページは、引き続きスマートフォンに軸を置きながら、「現地」ならではの情報発信に取り組みました。

運用開始から3年目となる今年度は、ホームページの利便性向上を図るため、イベントカレンダーの導入やパンフレットダウンロードページのレイアウトを変更しました。また、会員一覧ページの改修や協会が運用する各SNSの紹介一覧ページの設置を行うとともに、イベント掲載依頼フォームの設置や宿泊プラン比較サイトの改修作業を行いました。

情報発信としては観光客の方から需要が高い猿田彦神社と伊勢のお花を特集記事として作成し、ホームページへ掲載しました。

令和5年度のホームページアクセスのページビュー数は、2,602,135件(前年度2,330,509件:前年度対比112%)、セッション数は1,254,138件(前年度1,060,966件:前年度対比118%)となり、伸び率は好調となりました。英語ページについても、セッション数の伸び率が404%というところから、しっかりと閲覧されるようになってきています。

また、各SNSについては、今年度から若年層のシェアが多いTikTokの運用を開始しました。各SNSのフォロワー数は、順調に増加しておりますが、特にInstagramに関しては、インフルエンサーを活用した動画を投稿することで、多くの方から閲覧頂くとともに、投稿後のフォロワー増加率にも大きく貢献しました。若い世代ほど旅行の情報収集においてホームページを閲覧せずにSNSで済ませる傾向にあることから、SNSでの情報発信も引き続き強化していきます。

当会ホームページ <https://ise-kanko.jp/>

◇ ホームページ閲覧数

	PV	セッション	PV(英語)	セッション(英語)
令和5年度	2,602,135	1,254,138	46,916	28,345
令和4年度	2,330,509	1,060,966	11,623	6,370
増減	271,626	193,172	35,293	21,975
対前年比	112%	118%	404%	445%

◇ フォロワー数

	Facebook	Twitter	Instagram	TikTok	合計
令和5年度	3,323	5,761	7,871	451	14,083
令和4年度	3,194	4,979	4,959	-	13,132
増減	129	782	2,912	451	951
対前年比	104%	116%	159%	451%	159%

② SNS 情報発信事業(青年部) 683 千円

例年 SNS 上の参加型イベント「伊勢フォトグランプリ」を実施していましたが、全国各地でインスタグラムを用いた同様のイベントが乱立していることもあり、青年部インスタグラムアカウントのフォロワー数及び投稿数が伸び悩んでいたことから、他のアカウントと差別化するため、今年度は伊勢市在住の若手写真家へ「伊勢の日常の風景」をテーマとして撮影を依頼し、撮影した写真を青年部インスタグラムへ投稿する情報発信事業へ転換しました。

スタンダードな観光写真ではなく、伊勢に訪れてみたくなるような、見ていて感動する写真を言葉とともに発信することで、若年層をターゲットとした SNS 上での情報発信を行った結果、事業開始時点(令和 5 年 10 月 1 日時点)では 1,927 名だったフォロワーが 180 名増加し、令和 6 年 3 月末時点で 2,107 名のフォロワー数(対前年比 109%増加)となりました。うち若年層(34 歳以下)のフォロワー数は 120 名増加し、増加したフォロワーの約 7 割が若年層であったことから、効果的に若年層への情報発信を行うことができたと考えております。

今後は、協会全体の SNS アカウントと青年部インスタグラムアカウントとの住み分けを明確にするターゲティングを行い、より効果的に伊勢の情報発信を行えるよう取り組んでいきます。

◇ フォロワー数

	R5.10.1 時点	R6.3.31 時点	増減	対前年比
青年部インスタグラム	1,927	2,107	180	109%

③ PR グッズ作成(情報発信部会) 398 千円

観光 PR 用に下記のグッズを作成しました。

- ・付箋 400 個
- ・1色ボールペン 400 本
- ・ハンカチ 151 枚
- ・手提げ袋 400 枚

④ マスコットキャラクター事業(青年部)

令和 5 年度は伊勢市内でのイベントに 3 回、東京(東京大神宮観光 PR)で 1 回の活動を行いました。その他、三重県物産展でイラストの貸し出しも行いました。

⑤ 紙媒体による情報発信(情報発信部会)(パンフレット/リーフレット) 5,950 千円

紙媒体として情報発信を担うパンフレット/リーフレットは、行政と協働し観光パンフレット及び地図を作成し、観光案内所等で配布をしています。

今年度は、従来のパンフレットと共に二見まちあるき MAP の英語版を作成しました。

◇ パンフレット及びリーフレット印刷について

No	事業パンフレット名	予定数量	作成数量	備考欄
1	ええじゃないかお伊勢さん	10,000	10,000	総合パンフレット
2	伊勢～日本の源へ～	20,000	20,000	総合パンフレット
3	伊勢～日本の源へ～外国語版・簡体字	5,000	5,000	
4	伊勢～日本の源へ～外国語版・タイ語	5,000	5,000	
5	市内 Map(てくてく)	150,000	120,000	基本地図
6	二見まちあるき MAP	10,000	15,000	二見に特化した MAP
7	二見まち歩きマップ英語	0	5,000	二見に特化した MAP の英語版
8	ランチガイド	0	16,000	ランチに特化したパ ンフレット

⑥ 夜マップ(青年部) 440 千円

当協会青年部が作成し、市内の宿泊事業者の方から好評を頂いている「夜の飲食店マップ」について、2年ぶりに最新の掲載情報へリニューアルし、再版しました。観光客の方へ情報提供するため、各旅館組合を通じて伊勢市内の宿泊施設へ配布するとともに、当協会所管の観光案内所へ配置しました。

◇パンフレットの印刷部数について

No	パンフレット名	予定数量	作成数量	備考欄
1	伊勢の夜 食べ呑みまっぷ	5,000	3,000	印刷費高騰のため部 数を減らし印刷

⑦ 伊勢観光大使及び伊勢観光御師(御師委員会) 344 千円

首都圏等における情報発信を円滑且つ効果的に進めていく為に、協会は伊勢観光大使・伊勢観光御師制度を設けております。現在、次頁の方々に委嘱をさせて頂いております。令和5年度は新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが下げられたことを受け、東京御師会議を開催することが出来ました。4年ぶりの開催ということもあり、御師の皆様からは様々なご意見やアドバイスを頂戴することが出来ました。

なお、東京御師会議と同時開催を予定しておりました伊勢観光振興交流会は、中止となりました。

観光御師ネットワーク構築事業では、日本各地に伊勢との「繋ぎ役」を作り、全国に観光御師に次ぐ人材を確保し、ネットワークを構築することを目的としておりましたが、コロナ禍による長期中断により、予定していた人材確保が難しくなるなど事業全体を再構築する協議をしており、観光御師制度を含めた新たなシステムを協議しました。

◇ 伊勢観光大使並びに観光御師名簿

	所 属	役 職	氏 名
観 光 大 使		アスリート	野口 みずき 氏
	ファンタシウム	タレント	楠田 枝里子 氏
	トゥーフロント	女優	夏樹 陽子 氏
観 光 御 師	株式会社ジェイティービー (元会長・社長)	相談役	船山 龍二 氏
	株式会社共立メンテナンス (岡三興業株式会社 元代表取締役社長)	ホテル事業戦略本部 市場戦略部 特別顧問	松本 久雄 氏
	株式会社 JR 東日本 びゅうツーリズム&セールス (日本観光振興協会 元理事長)	顧問	見並 陽一 氏
	人流・観光研究所 株式会社東麻布企画 (元加賀市長)	所長 社長	寺前 秀一 氏
	三井住友信託銀行株式会社	名誉顧問	村上 仁志 氏
	公益財団法人 セコム科学技術振興財団 (セコム株式会社 元専務取締役)	代表理事	佐々木 信行 氏
	東海旅客鉄道株式会社	特別顧問	松本 正之 氏

⑧ 外国人観光客誘致事業(情報発信部会、インバウンド委員会) 1,582 千円

令和5年度は、新型コロナウイルスの終息を受け世界中で旅行への関心が増加したことや、円安傾向ということもあり、JNTO 訪日旅行者数推計値においては、約2,880万人とコロナ禍前(2019年、平成31年)の約3,180万人の90%と好調に回復をしました。国別では、韓国、台湾、中国で全体の50%を占め、香港、アメリカが追随する形となりました。

当会においても、延期をしておりました海外現地PRを実施することができ、11月にシンガポールにて現地PRを実施することが出来ました。本年度は、在シンガポール日本大使館が所有する、ジャパングリエイティブセンター(Japan Creative Center)で、当会会員が開催していたパールジュエリーグランプリに合わせて実施をさせて頂きました。実施内容は以下のとおり

<海外PR(シンガポール)>

期 間:令和5年11月22~11月27日

(PR実施日11月25日)

場 所:シンガポール在日大使館 Japan Creative Center

内 容:プレゼンテーション及びレセプション

プレゼンテーションは、「Ise-Shima ~Sustainable Life with Nature」と題して、「伊勢志摩の紹介(イントロダクション)」と「SDG's と神宮の文化(キーノート)」の2部構成で、英語で実施しました。プレゼンテーションに併せて、レセプションを開催し、豊かな伊勢の食の試食を通して、伊勢への興味関心の喚起を行いました。今回は、伊勢うどんや松阪牛のローストビーフ、伊勢蒲鉾、おにぎりを始め、太閤出世餅、糸印煎餅、山田三方などの甘味、そして伊勢茶のふるまいを行いました。アジア圏は全般的に食に関する関心が高く、今回の提供品に関しても色々な質問を受けました。

プレゼンテーションに併せて、現地旅行会社へもセールスと調査を実施しました。シンガポールにおいても、コロナ禍で止まっていた海外旅行が、国境が開かれたことにより再開され、業績は回復しているということでした。日本向け旅行に関しては、既に企画されているものもあるが、人気の目的地は北海道、東京からのゴールデンルートだということでした。三重県(伊勢志摩)への周遊の可能性に関しては、大阪着、和歌山、奈良からの伊賀、桑名(なばなの里)といったものとの組み合わせが魅力的とのことでした。さらに、全体的に三重県の情報が少なく、情報や資料提供を依頼されるケースが多く見られました。

⑨ 観光 PR 事業(情報発信部会、青年部、事務局) 449 千円

情報発信部会による観光 PR につきましては、札幌地下歩行空間(チカホ)での開催を予定しておりましたが、伊勢市の期間限定アンテナショップ「ISESHOP」の開設が同時期に同地区で開催が決まったことや、現地の情勢により今年度の開催は見送りしました。

青年部は令和 6 年 3 月に東京大神宮で観光 PR と物産展を開催しました。過去最高の売り上げを記録するとともに、コロナ禍後の交流人口の増加を肌で感じる事ができたイベントとなりました。

今後も引き続き伊勢の誘客に繋がるよう取り組んでいきます。

<東京大神宮観光PR>

- ・期間:令和 6 年 3 月 9 日(土) ~ 令和 6 年 3 月 10 日(日)
- ・売上:810,600 円(税込)
- ・場所:東京大神宮
- ・連携事業者:東京大神宮

⑩ 日本観光祈願祭及び観光交流伊勢会議(観光祈願祭実行委員会) 156 千円

第 56 回日本観光祈願祭を 11 月 9 日に、外宮にて斎行しました。三重県内の行政及び観光関係者 40 名と共に、観光産業の健全な発展と旅行の安全を神宮へ祈願しました。

なお、観光交流伊勢会議はコロナウイルス感染症の情勢を鑑み中止しました。

2 誘致接遇事業

① 観光案内所事業(おもてなし・情報発信・中期) 25,355 千円

◇ 案内所実績表

	外宮前※*	宇治山田駅※	伊勢市駅	宇治浦田※	二見浦	合計
令和5年度 (うち外国人)	48,640人 (939人)	—	59,445人 (2,242人)	—	22,677人 (1,122人)	130,762人 (4,303人)
令和4年度 (うち外国人)	32,709人 (166人)	6,509人 (37人)	46,382人 (575人)	12,119人 (36人)	17,434人 (278人)	115,153人 (1,092人)
対前年比	148.71%	—	128.16%	—	130.07%	113.56%
(うち外国人)	565.66%	—	389.91%	—	400.71%	393.33%

※・宇治山田・宇治浦田・外宮前の各案内所はR4.11月まで。それ以降、外宮前・宇治山田・宇治浦田の遠隔案内機での案内数は、伊勢市駅にてカウント。

* 外宮前は協会の観光サービスセンターとしてR5.4月から独自にカウント。

案内所案内数と神宮参拝者数の割合

令和5年度はポストコロナ期となり、来訪者数が回復してきました。特に外国人観光客に関しては昨年対比393%と改善してきており、外貨獲得に向けて今後のインバウンド需要が期待されます。今年度も、神宮参拝者数と案内数の対比から、案内所来訪者数割合の低下が見られています。

コロナ禍でインターネットへの抵抗感が減少し、インターネット検索での情報収集が増大した結果により対面案内の需要は低下していますが、それに相反する対面であることの優位性を鑑み、伊勢市と協力して遠隔案内機等を活用したDXの推進に取り組んでいます。

中心市街地から距離がある二見浦観光

案内所も遠隔案内機で英語対応を可能にしています。また、ホームページに掲載しているチャットボットにて、観光客からのリアルタイムチャットも案内所職員が対応し、どこにいても観光案内の問い合わせが気軽にできるようにしています。今後、遷宮に向けて、フレキシブルに案内機を移動・増設することで、緩急に合わせた案内機能を提供できるようにしていきます。

	5案内所 総計	神宮参拝者数	割合
H29年度	318,553	8,798,000	3.6%
H30年度	287,224	8,505,000	3.4%
H31年度 R1年度	212,340	9,729,000	2.2%
R2年度	86,809	5,538,000	1.6%
R3年度	85,593	3,827,000	2.2%
R4年度	115,153	6,037,000	1.9%
R5年度	130,762	7,173,000	1.8%

※神宮は暦年・概数

② 手荷物事業(事務局) 29,399 千円

来勢されるお客様への更なる便宜を図るために伊勢市駅手荷物預り所と外宮前観光サービスセンター(旧外宮前観光案内所)において手荷物事業を実施しました。手荷物事業に付帯して伊勢市駅手荷物預り所建屋の管理(多目的トイレ、授乳室、休憩所など)、レンタサイクルの貸出、簡単な観光案内などを行っております。また、新たな取り組みとして、地域の玄関口である駅舎にコインロッカーなど手荷物の一時預かり場所が無かった二見地区において、9月より二見浦観光案内所において手荷物の一時預かりサービスを開始しました。

令和5年度はコロナ禍が終息したことで、手荷物一時預りはコロナ禍以前の水準まで回復しました。しかしながら、手荷物配送は変化を遂げた旅行形態や、旅行会社手配の取り扱いの回復が遅れていることから、コロナ禍以前の約50%までの回復となっております。

伊勢市駅では総取扱い金額で 2,661 万円(前年度 2,343 万円)、外宮前観光サービスセンターでは総取扱い金額で 182 万円(前年度 152 万円)と増収となりました。新設の二見浦観光案内所では、42 万円(9月から開始)収入がありました。

増収の主要な要因は、ポストコロナ期に入ったことにより旅行需要が高まったことであると考えられます。

◇ 手荷物預かり実績

単位:個

	伊勢市駅 手荷物預かり所		外宮前 観光 SC	二見 観光案内所	合計
	預かり	配送	預かりのみ	預かりのみ	
令和5年度	34,744	8,837	6,072	1,433	51,080
令和4年度	30,322	8,995	5,090	-	44,407
増減	4,738	▲158	982	1,433	6,673
対前年比	114.56%	98.24%	119.29%	-	115.02%
H31 参考値	30,420	16,976	3,476	9月開始	--

③ ガイド事業(ボランティアガイド、他) 244 千円

(お伊勢さん観光ガイドの会運営委員会、おもてなし行事部)

外宮前観光サービスセンターにおいて、神宮のガイド「お伊勢さん観光ガイドの会」が常駐し、日々観光客のご案内に務めています。現在の会員数は 55 名です。

本年度のガイド件数は 2,690 件(前年度 1,833 件)で 6,480 人(前年度、6,796 人)の観光客を案内しました。件数ベースで約 147%と増加しました。案内人数の減少については、コロナ禍で伊勢志摩を行き先にした修学旅行が、元のエリアを行き先に戻っていたことが挙げられます。なお、昨今退職年齢が上がっていることもあり、ガイドの平均年齢は 71 歳であり、80 歳代のガイドが 13 名と、高齢化への対応が必要となってきています。

	案内件数	案内人数	件数 対前年比
令和5年度	2,690	6,480	147%
令和4年度	1,833	6,796	215%
令和3年度	851	4,535	87%
令和2年度	978	4,380	26%

④ レンタルサイクル事業(事務局、青年部) 1,930 千円

各案内所等において 57 台(外宮前 12 台、伊勢市駅手荷物預り所 32 台、二見浦観光案内所 5 台※9 月より導入、たび蔵 3 台、伊勢シーパラダイス※10 月で終了、オレンジカフェウッド※12 月で終了、事務局 5 台)を維持管理し運用しています。(オレンジカフェウッド、伊勢シーパラダイス、たび蔵は委託)

本年度貸出件数は 4,572 台(外宮前案内所 1,207 台、伊勢市駅 3,159 台、二見浦観光案内所 103 台、その他 103 台)となりました。前年度 4,424 台から 3.4%の増加となりました。(レンタサイクル収益計 569 万円)好調の要因に関しましては、コロナ禍が落ち着きを見せたことと、あそキャンや OTA のクーポン発行や二見浦観光案内所への導入等が主な要因ではないかと推察します。

伊勢シーパラダイスでのレンタサイクルは自転車の経年劣化により 10 月末をもって終了致しました。また、五十鈴川駅にシェアサイクルが導入されることが決まった為、オレンジカフェウッドでのレンタサイクルは 12 月で終了致しました。

また、近畿日本鉄道からの委託を受け、シェアサイクル7台(ステーション:宇治山田駅、五十鈴川駅、浦田駐車場 B4)のバッテリーの交換等の作業に協力をさせて頂いております。

◇ レンタサイクル利用者数

	外宮前観光サービスセンター (旧外宮前観光案内所)	伊勢市駅 手荷物預り所	二見浦 観光案内所	その他	計
令和5年度合計	1,207	3,159	103	103	4,572
令和4年度合計	1,089	3,052	-	211	4,352
増減	118	107	-	△108	1,548
前年度対比	110.8%	103.5%	9月開始	48.8%	105.1%

⑤ 御遷宮対策事業(おもてなし行事部、事務局)

御遷宮委員会の一員として、次回の神宮式年遷宮へ向けて様々な協議を進めました。併せて、広報誌の発行や初穂曳など伝統行事の継承を軸に民俗行事の遂行への協力をしました。「参宮紙札」を参拝された方にお渡しする事業にも協力をしました。

令和5年度は奉曳本部・奉曳団連合会結成準備委員会が設置され、当会も参画をしました。来年度の奉曳本部及び奉曳団連合会の本結成に向けて、市民の意識向上を図りました。

⑤ 年越餅つき行事・年越餅の贈呈(おもてなし行事部) 201 千円

令和 5 年 12 月 25 日(月)に外宮衛士見張所付近特設会場において猿田彦神社宮司様により神事を行うと共に、市長をはじめとする関係者 33 名で餅つきを実施。外宮に奉納するほか、特設会場にて見学者の方に餅つきを体験して頂きました。

また、毎年恒例の年越餅の贈呈行事に関しては、コロナ禍を経ての価値観の変化と衛生面を考慮して、今年度については執り行いませんでした。担当部会であるおもてなし行事部にて事業のあり方や来年度の事業内容について引き続き検討していきます。

⑥ 「伊勢楽市」事業への協力(事務局、青年部)

今年度の伊勢楽市は春季 5 月 13 日～14 日、秋季 11 月 4 日～5 日の 2 回開催し、観光客を始め市内外から多数来場頂きました。伊勢志摩の地場産品にこだわり、観光客のみならず伊勢市民にも喜ばれております。各種団体の PR ブースを配置するなど、外宮前の活性化に貢献しました。

⑦ おもてなし研修(事務局、おもてなし行事部) 10 千円

おもてなし研修として、「～とりあえずやってみた SNS を、もっと効果的にするために～SNS 情報発信における課題とその解決」を伊勢市及び伊勢商工会議所と共催しました。市内事業者の方、43 人が参加し、SNS 情報発信のコツを学びました。研修評価は 100 点満点で 90.3 点と、高評価でした。

⑧ 先進地研修事業(青年部) 200 千円

今年度の青年部の研修視察では、愛知県岡崎市にてアフターコロナの観光施策と大河ドラマを活用したコンテンツツーリズムについて学ぶとともに、名古屋市熱田区では神宮とも縁深い熱田神宮を視察しました。

参加人数は、親会 2 名、青年部 12 名、総勢 14 名となりました。岡崎市の視察では岡崎市役所の方に講演及びドラマ館のアテンドをお願いしたことで、岡崎市の実情と施策例を詳しく知ることができました。また、熱田神宮視察では神宮と同じく三種の神器(草薙剣)をお祀りする熱田神宮に参拝することで伊勢神宮の価値を再認識することができました。本研修での成果を伊勢の観光誘客に繋げていきます。

⑨ 先進地研修事業(親会) 200 千円

岐阜県下呂市へ先進地研修視察に出向きました。会員 14 名、事務局 1 名の参加となりました。1 泊 2 日の研修で、初日は下呂市内を視察し下呂温泉観光協会瀧会長から、下呂市 DMO の活動について研修を受けました。下呂市の先進的な取組は非常に勉強になりました。伊勢市や商工会議所、伊勢まちづくり株式会社とも共有し、今後の伊勢市 DMO 体制構築に参考にしていきます。2 日目は高山の観光地を視察しました。高山市は外国人も多く、朝市などでまちなかのにぎやかさの演出をされているところが勉強になりました。下呂も高山もスイーツに取り組むことで魅力の強化を行っており、参考になりました。

⑩ 伊勢二見ビーチ活性化事業 5,131 千円

・「夜の浜参宮事業」

令和4年度に、二見エリアの活性化に向けて、観光庁「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」に応募し、「次期遷宮へ繋ぐ、社会動向に即した神宮参拝を提案する事業」として看板商品候補を作成し、1泊2日のモニターツアーを実施しました。その中で提案した体験商品について、観光庁事業の座組(伊勢市、ジェイアール東海エージェンシー)から、販売先となるジェイアール東海ツアーズと販売する体験商品を「夜の浜参宮」と決定し、ブラッシュアップして販売しました。

実績: 令和5年9月2日11名、9月9日26名

令和6年2月22日11名、3月3日17名、3月23日43名

・「二見周遊促進事業」

二見の代表的名所旧跡である、夫婦岩及び二見興玉神社を軸とした体験・アクティビティコンテンツの開発を行い、じゃらんサイトでの販売を行いました。事業PR及び体験メニュー利用促進のためクーポン発行、チラシの作成及び配布を行いました。

・「チャージスポットを活用した二見周遊事業」

スマートフォンが旅行や出張の必需品となっており、旅行の利便性向上を図るため、スマートフォンやタブレット、カメラ等が充電できる3タイプのケーブルが内蔵されたモバイルバッテリー自動貸出機・チャージスポットを導入し、伊勢市内の観光店舗/スポット10カ所に設置し、在庫管理等運営を行いました。

(内宮エリア6台、外宮エリア3台、二見エリア1台 合計10台設置)

利用数は、貸出数2,249件、返却数1,269件で前年比20%増となりました。(実績算出期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日)

また、チャージスポットのデジタルサイネージにて、二見の絆体験や伊勢楽市、手荷物預かり等様々なイベント情報を放映し発信に努めました。災害時には、無料でバッテリーを貸し出す防災のためのインフラとしての役割も果たしています。

⑪ EVモビリティを活用した周遊企画「伊勢ぶちたび」造成

(長期滞在・周遊向上促進事業)

EVモビリティを活用した新たな伊勢市内周遊企画を他地域で成功事例のある民間企業と連携して造成及び販売・プロモーションを行いました。株式会社たびぞうが提供する、EVモビリティ(EVトゥクトゥク2台及びEVミニバイク8台)を使った滞在・周遊ルートの策定と提供を行いました。

利用者件数が285件のべ755名参加(BIKE96台、トゥクトゥク231台)となりました。二見浦ビーチ活性化事業【絆体験】にも新たに参画し、環境に優しい電動モビリティを活用することによりSDGsを意識した観光モデルとしても確立することが出来ました。

4 協会が協力した諸行事

本年度、下記行事に後援及び協賛しました。

- ・倭姫宮秋の例大祭
- ・おかげ横丁夏まちまつり
- ・さるめ書道展
- ・初穂曳
- ・初午祭
- ・来る福招き猫まつり
- ・おひなさまめぐり in 二見
- ・伊勢神宮奉納書道展
- ・その他

<収益事業等—賃貸事業> 収益 4,694 千円、費用 1,573 千円

伊勢市駅前ビルを賃貸物件として運用、風餐亭1F 研修室は貸し会議室として運用しています。

- ・ 伊勢市駅前ビル 鉄筋 4 階建て
- ・ 風餐亭 1F 研修室

<収益事業等—物品販売事業> 収益 16,230 千円、費用 9,791 千円

① EC サイト事業

昨年度リニューアルした EC サイトの運用を行い、売上総額は 41 万円です。

② 伊勢市ふるさと応援寄附金返礼品対応事業

伊勢市ふるさと応援寄附金返礼品対応事業は、返礼品の受付発送業務だけでなく、事業の PR、パンフレットの作成及び新たな返礼品の開拓業務等を行いました。令和 5 年度の実績は、寄附件数が 12,063 件(前年 12,713 件)、寄附額が 459,765,188 円(前年 462,734,086 円)、発送手数料が 10,958,500 円(前年 13,243,500 円)となり、前年度実績を上回ることはできませんでした。寄附件数・寄附額の要因としては、新たなポータルサイトの追加が無かったこと、全国で競争が激化していることなどが考えられます。手数料の要因としては、寄附件数の減少および、返礼品に楽天トラベルクーポンなど発送の不要なものが増えていることなどが考えられます。そのため、令和 6 年度は旅先納税と旅行券に取り組む予定です。

③ ISESHOP 事業

<札幌 ISESHOP PR・物販イベント>

「さっぽろ地下街オーロラタウン コミュニケーション広場」に期間限定店舗「ISESHOP」を設置しました。今年度は、札幌に店舗を持つ当会会員の株式会社グラシヤスに現地での店舗運営、宣伝および各団体との調整、最終的な返品作業を委託しました。当会人員 1 名を 2/29～3/3 間で配置し、店舗設営、運営等の業務を行いました。

- ・期間 : 令和 6 年 3 月 1 日(金) ～ 3 月 12 日(火) 12 日間
- ・営業時間: 10:00 ～ 20:00 (最終日は 16:00 閉店で撤収作業)
- ・売上 : 5,137,867 円、1 日平均売上 428,155 円
- ・場所 : さっぽろ地下街オーロラタウン コミュニケーション広場
- ・連携事業者:伊勢市、株式会社グラシヤス(委託事業者)

<収益事業等—会員互助事業>

令和 6 年 3 月 31 日現在 会員数 正会員 449 賛助会員 14
(入会数 22、退会数 20)

① 広報誌「ええじゃないか伊勢」の発行(情報発信部会、青年部) 268 千円

情報発信部会及び青年部総務委員会の共同製作の会員広報誌として、第 40 号を 6 月 20 日に 600 部発行しました。

②青年部会員互助事業 207 千円

青年部手帳を 100 部作成しました。また、Zoom やグループウェアを活用し効率的な組織運営を行いました。

③会員交流会(中期政策検討部会) 45 千円

会員相互の親睦を深めるため、年末(12 月 14 日)に会員交流会を忍者キングダムで開催をしました。計 83 名の参加があり、懇親と意見交換が行われました。

<法人事業> (中期政策検討部会)

本部会では、協会運営に関する重要事項や、コンプライアンス対応を協議及び実施しました。本年度は引き続き収益改善にむけて、新事業の取り組みや既存収益事業の改善を図るとともに、各種規定の整備による職員の待遇改善を行いました。

観光地域づくり法人(地域 DMO)としては、伊勢をどのように「観光で稼げる地域」にしていくのかということについて、行政、商工会議所、まちづくり会社、そして当会の担当者と共に、DMO 会議を組織し検討を続けてきております。さらに観光庁の専門家派遣事業を活用し、外部の専門家の助言を取り入れながら協議を進めました。

伊勢市全体を一つの会社と見立て、参画団体が各部署を担うようなイメージで、伊勢市内における資源「ヒト、モノ、カネ」を最大限有効活用できるような役割分担と運営スキームを構築していきたいと考えております。また、それを推進していくために必要な DMO 戦略プランの構築を検討するとともに、伊勢の観光に必要なマーケティングの実施を模索しています。

<報告事項><令和5年度に発生した公益事業剰余金について>

令和 5 年度に発生した、公益事業会計における剰余金 ¥2,187,885 につきましては、令和 6 年度事業におけるの解消を図ります。

※令和 5 年度収支決算(案)に関しましては、別添「財務諸表」をご覧ください。